

ケアセンターけやき

症例概要 利用者： 女性 要介護5

利用期間：平成29年10月～現在

既往歴：アルツハイマー型認知症、二型糖尿病、高血圧症

経 過

令和5年7月尿路感染症と酸素化不良で入院。この時、半年程前に心筋梗塞（無症状）を発症していたと指摘される。心機能不良だが認知症と長年の糖尿病、ネフローゼ症候群があることから、侵襲検査・治療は困難とのこと。身内がいいため成年後見人、施設看護師が医師と相談し、施設で看取りの方針で退院となる。退院後は、意識レベル、バイタルが不安定だったが、声かけなど刺激を与え、少しずつ介助で経口摂取をすすめたところ、徐々に意識レベルが回復し、自力で経口摂取でき、笑顔で暮らせるようになった事例。

内 容

在宅生活では火や水の不始末があり、地域包括介入で有料老人ホームに入所するが、糖尿病のコントロール不良で内分泌科に入院。しかし、BPSDがあり精神科閉鎖病棟転科し保護入院。以前の施設に戻れず、血糖コントロール不安定の状態でご施設に入所となる。

ご自宅で自立した生活ができると思っており帰宅願望が強く、介助を嫌うところがあり、意にそぐわないと興奮して大きな声で話すことがあった。また、食べ物を買いに行くと言い、何度も外へ出ようとするごことがあった。

令和5年7月尿路感染症と診断され入院となるが、半年ほど前に心筋梗塞を発症していたことがわかった。状態は悪く心機能が低下しているが、認知症と長年コントロールが不安定な糖尿病、ネフローゼ症候群があることから、侵襲検査や治療は難しいとされた。身内がいがないため、成年後見人、施設看護師が医師と相談し、「入院はやダ。」「一人なんだから、もしもの時は余計なことはしてほしくない。」とご本人が言っていたことから、施設で看取りの方針で退院となった。

退院後は、大きな声で呼ぶとやっと開眼される状態でご無呼吸も見られた。食べるのが好きで、糖尿病があることから我慢していた大好きな甘いものを、出来るだけ味あわせてあげたいと思い、一口ずつゼリーやプリン等を介助で口に運んだ。また、コーヒーもブラックだったが、砂糖とミルクも入れて飲ませ

た。はじめは味わう程度だったが、徐々に摂取量が増え、摂取量が増えてくると覚醒状態も改善され、自分でスプーンを持ち、食べるようになった。ベッドからリクライニング車椅子で食堂に行くことができるようになり、笑顔で挨拶したり、習慣だったチラシ折や新聞を読まれたり、レクに参加できるようになった。体力がついてくると通常の手椅子に変更し、促し励ましながらか椅子を自走したり自分で整容できるようになった。9月18日の敬老会では、長寿のお祝いをさせていただくことが出来た。

身内がいなく、自己決定できない状態となったが、これまでの関わりの中でご本人はどうしたいのか、何が最善なのかを考え支援し、少しずつ元気を取り戻したことはキラキラ介護賞に値するとし推薦させていただきます。